

# 社会科の授業における 生徒や教員の援助ニーズの把握とその支援について

学籍番号 219201  
氏名 猪伏 慶人  
主指導教員 梅川 康治  
副指導教員 水野 治久

## 1. 背景

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（中央教育審議会，2021）では、自律的な学習者を育む個別最適な学びと協働的な学びを一体化した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要性が強調されている。とりわけ個別最適な学びにおいては、ICTの日常的な活用によって、自ら見通しを立て、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだすことなどが期待されており、教員の働き方改革やGIGAスクール構想の観点からも、ICTを適切に利活用した授業改善の方策が求められている。中学校学習指導要領（文部科学省，2017）においても、これまでの学校教育の蓄積を生かしながら、資質・能力の3つの柱をバランスよく育成し、学習の質を一層高めるための授業改善が推進されている。

## 2. 実習校の現状と課題

実習校の生徒は全体的に落ち着いて授業等に取り組んでおり、授業と宿題を軸とした社会科の学習が進められている。一方で、教員は多様な生徒像や学力差を感じており、依然として「学習内容の理解と定着の程度」に関して懸念している様子があった。そこで、本実践課題研究では、学級の全ての在籍生徒が同じ教室内で学ぶ社会科の授業場面における生徒や教員の援助ニーズを探り、授業改善に向けた支援策を検討することを目的とした。

## 3. 「ふりかえりシート」の開発および実践

小池他（2015）は、中学校数学科の授業の終末において、生徒が1時間の学習の振り返りを記述する「振り返りシート」を開発し、生徒の記述内容を授業者にフィードバックする実践の結果、教員が授業を検討し改善していくうえで一定の効果があることを明らかにしている。本研究においては、小池他（2015）を一つの先行研究として、授業時間終末の5分間程度を利用して、社会科の授業での生徒の学習内容の理解や定着の様子を把握するためのアンケート「ふりかえりシート」を開発し、社会科担当教員2名の協力を得て、2年生の全8学級で計3～4回実施した。ふりかえりシートは多肢選択と自由記述の計10項目から構成され、生徒が所有するタブレット端末からGoogle Formsを用いて回答を求めた。その際、ユニバーサル・デザインの観点から、各質問項目の意味、回答の仕方等を解説するプリント「ふりか

えりシート～解説編～」を独自に作成・配布した。生徒の行動観察からは、ふりかえりシートのマンネリ化、「ふりかえりシート～解説編～」の限定的な効果等が課題として浮かび上がり、回答時間が限られた中での質問項目や説明の工夫および改善が必要であると言える。

#### 4. 実践の結果と考察

生徒によるふりかえりシートの回答結果から、9割近い生徒が自分の授業内容の理解の程度を肯定的に感じていた一方で、テストへの自己効力感については9割以上の生徒が中程度の選択肢を回答したことが示された。生徒はテストに対して一定の自信のなさをもっており、学習内容の「理解」よりも「定着」に課題がある可能性が示唆された。続いて、各質問項目間の関連を検討した結果、授業内容の理解度の自己評価は、テストの自己効力感と関連が見られたものの、テストに対してある程度の自己効力感をもてるのは、授業内容が「よく理解できた」と感じられたときであるという傾向が示された。また、授業内容の理解の程度に関しては、テストの自己効力感の程度と比較して、そのときの体調や気分といった健康面もより影響を与えていることが考えられる。なお、授業の振り返り時の理解や定着の程度の自己評価は、その生徒の成績の良さとはあまり関連しないことも明らかになった。

自由記述項目での生徒の回答においては、学習内容が身近に感じられる授業が印象に残りやすいことが示唆されたほか、具体的な疑問点や授業に対する要望等の記述もあり、授業改善の示唆を得るための取り組みとして、一定の意義があったと言えるだろう。また、成績の良い生徒ほど文章の記述量が多く、より具体性の高い振り返りを行っていた傾向が見られた。

#### 5. インタビュー調査の実施

ふりかえりシートの実践的役割や効果、感想等を整理し、社会科の授業における教員の援助ニーズを探るために、協力者の教員2名を対象とした半構造化インタビューを実施した。内容は〈授業について〉と〈ふりかえりシートについて〉の2点であり、KJ法で整理・分析を行った。インタビューの結果から、実習校の社会科担当教員は、日々の授業において、リソースの不足等を感じながらも「生徒の理解と対応」に最も気を配り、生徒理解をもとに授業スタイルを工夫し、GIGAスクール構想による新しい授業スタイルを探りながら授業とテストを進めている実態と課題が示唆された。また、実施したふりかえりシートに対しては、肯定的な評価と感想が得られた。回答内容を空き時間に確認することによって授業づくりや生徒理解等に活用できたこと、生徒による自由記述の項目が役立てられたこと等の一定の有用性が確認された。

#### 6. 総合考察

ふりかえりシートの実践を通して、生徒の振り返りの内容を視点として、教員自身が授業をより客観的に評価し、授業づくりや授業改善に関する示唆を得られた。一方で、ふりかえりシートの課題として、回答時間の確保、回答を求めるタイミング、質問項目の精選等があげられ、ふりかえりシートの重層化、ねらいを明確化した実施、スタディ・ログとしての活用等も含めた今後のさらなる検討と試行錯誤が必要である。